

平成 27 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	温度を基軸とした生命現象の統合的理解
領域代表者	富永 真琴 （大学共同利用機関法人自然科学研究機構（岡崎共通研究施設）・岡崎統合バイオサイエンスセンター・教授）
研究期間	平成 27 年度～平成 31 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、温度に関係する多様な分子や生命現象を理解することで、生命機能における温度の新たな普遍的役割を明らかにしようとする意欲的な提案である。日本が世界をリードする TRP 等の温度感知チャネル等の卓越した研究成果の上に立脚し、多様性と普遍性に優れた「温度生物学」を新たに創成する領域研究であり、着実な成果が期待できる。また、研究目的の妥当性は高く、体温調節の分子機構や制御システム、代謝とのクロストーク等の解明が期待されるだけでなく、他の医学・生物学関連の研究分野にも一定の波及効果を及ぼす可能性がある。</p> <p>研究組織は、温度センシングと温度応答システムの各研究項目を、高分解能・高精度の温度計測・制御法で下支えする体制であり、加えて、研究支援やリソースの共有、計画研究間の連携も計画されており評価できる。また、公募研究は領域研究の遂行に必要な研究分野を補完するように設定されており、領域全体の推進が期待できる。</p> <p>一方で、温度生物学が新たな生命科学の基盤として認知され、他の学問分野へ深く組み込まれるための方策が望まれる。</p>